

発掘だより No. 37

豊川市教育委員会 生涯学習課発行

〒442-8601 豊川市諏訪1丁目1番地

平成16年3月21日(日)発行

TEL(0533)89-2158(直)

平成15年度下六光寺遺跡発掘調査の概要

豊川市教育委員会では、豊川西部土地地区画整理事業に伴い、工事の対象となる遺跡の発掘調査を実施しています。

下六光寺遺跡は名古屋鉄道名古屋本線国府駅から北東へ約1kmに位置する遺跡で、西古瀬川の右岸に開折された台地(標高23m)に南北方向へ細長く展開しています。下六光寺遺跡の北側約200mには古墳時代の集落として知られる六光寺遺跡、西古瀬川を挟んだ対岸には古代の集落遺跡である東赤土遺跡が広がっています。また、南に600mほど進むと古代の国府が置かれ栄えた白鳥遺跡、南東には古代の道路跡が見つかった上ノ蔵遺跡や古代の国分寺関連遺跡である国分寺北遺跡があります。

下六光寺遺跡ではこれまでに、分布調査(遺跡があるかどうかを調べる調査)や遺跡範囲確認調査(どのくらいの範囲で遺跡が広がっているのが、またどういった時代の遺跡かを確認するための調査)が行われ、遺跡の北側では古代の集落、南側では弥生時代の集落の存在を想定していましたが、本発掘調査(遺跡の中で開発計画が起こった場合に行う調査)として発掘されたのは今回が初めてです。このため遺跡がどのような様相を見せるのか注目されました。今回の調査地は道路建設予定地で、下六光寺遺跡の中でも南東側にあたります。

1. 調査概要

- ・ 調査期間 平成15年12月15日から3月21日まで
- ・ 調査理由 豊川西部土地地区画整理事業に伴う事前調査
- ・ 調査主体 豊川市教育委員会
- ・ 調査面積 1,100m²

2. 確認された遺構・遺物

今回の調査では弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落跡(竪穴住居、掘立柱建物、土坑、ピット)を中心に検出しました。その他に奈良時代(8世紀中ごろ)の住居跡(竪穴住居)が検出されています。

住居跡からは弥生土器をはじめ、石製品、須恵器、土師器などが出土しています。その中でも主要な遺構・遺物を紹介します。



下六光寺遺跡位置図

・^{たてあなじゅうき} 竪穴住居

今回の調査で最もたくさん検出されたのが、^{たてあなじゅうき} 竪穴住居と呼ばれる住居跡です。調査区内で37棟検出されました。いずれも隅丸方形の建物です。平均して6m四方のものが多く、最も大きなものは7m四方の奈良時代の住居です。建物の中からは、^{ちよぞうけつ} 貯蔵穴、^{じしやうろ} 地床炉、柱を支える^{しちちゆうけつ} 支柱穴、^{しゅうこう} 周溝、^{かまど} 竈などの施設が検出され、貯蔵穴の中からは^{たかつき} 高坏、^{つぼ} 壺、^{かめ} 甕などの土器が出土しています。中にはミニチュア土器や土製勾玉が出土した建物（竪穴住居533）もあります。時期は建物ごとに異なりますが、^{やよい} 弥生時代後期から^{なら} 奈良時代にかけてのもので

竪穴住居番号	時 期	備 考
508	不明	地床炉なし、周溝なし
509	もとやしき 元屋敷(古墳時代前期)	地床炉あり、周溝あり
510	奈良(8C中)	竈あり、周溝あり、貯蔵穴あり
511	不明	一部のみ検出
512	かけやま 欠山(弥生時代末から古墳 時代初頭)	地床炉あり、周溝あり
513	やまなか 山中(弥生時代後期)	地床炉あり、周溝あり
514	欠山	地床炉あり、周溝なし
515	欠山?	地床炉あり、周溝なし
516	欠山	周溝あり、一部のみ検出
517	欠山	周溝なし、一部のみ検出
518	欠山?	地床炉あり、周溝あり、一部のみ検出
519	不明	地床炉あり、周溝なし
520	不明	地床炉あり、周溝なし
521	元屋敷	地床炉なし、周溝あり
522	不明	地床炉あり、周溝あり
523	不明	地床炉あり、周溝あり
524	欠山	地床炉あり、周溝あり、貯蔵穴あり
525	山中	地床炉あり、周溝あり
526	欠山	地床炉あり、周溝あり、貯蔵穴あり
527	欠山	地床炉あり、周溝あり、貯蔵穴あり
528	欠山	地床炉なし、周溝なし、一部のみ検出
529	元屋敷	地床炉あり、周溝あり、一部のみ検出
530	欠山	周溝あり、一部のみ検出
531	欠山	地床炉あり、周溝あり
532	欠山	地床炉なし、周溝あり、貯蔵穴あり
533	欠山	地床炉あり、周溝あり、ミニチュア土器、土製 勾玉出土
534	不明	周溝あり、一部のみ検出
535	不明	周溝あり、一部のみ検出
536	不明	地床炉あり、周溝あり
537	欠山	地床炉なし、周溝あり
538	山中	地床炉あり、周溝あり、貯蔵穴あり
539	山中	地床炉あり、周溝あり、貯蔵穴あり
540	欠山	地床炉あり、周溝あり
541	不明	地床炉あり、周溝あり
542	欠山	地床炉あり、周溝あり
543	欠山	地床炉あり、周溝あり、貯蔵穴あり
544	不明	地床炉なし、周溝あり

下六光寺遺跡 竪穴住居一覧表

・掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}

調査区内で3棟検出されました。いずれも弥生時代末から古墳時代初頭の建物です。うち2棟のプランを見てみると、東面・西面の柱間はそれぞれ3間ですが、北面の柱間は2間、南面の柱間が3間と異なっています。これは南側が建物の入り口に当たり、北側には扉がなかったためと考えています。

・その他の遺構^{いこう}

先に述べた建物のほかに、溝、土坑^{どこう}、ピットと呼ばれる遺構が多数検出されました。時期のわかる土坑の中には弥生時代後期のものがあり、甕^{かめ}や高坏^{たかつき}が出土しています。

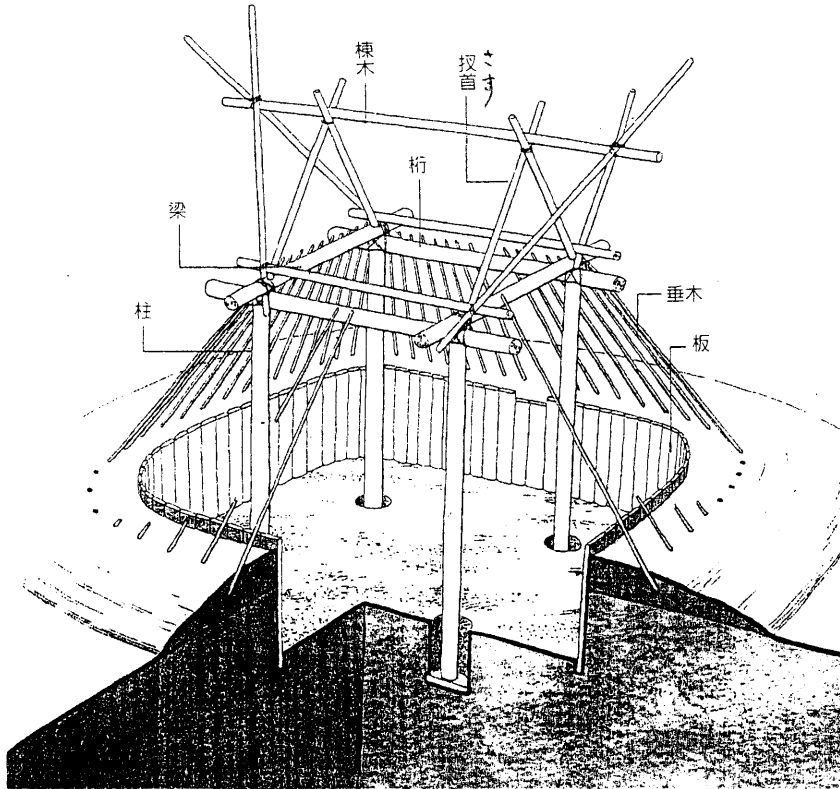
3. まとめ

今回の調査では、従来の確認調査で想像していた以上に多くの建物跡が確認され、下六光寺遺跡^{しもろっこうじ}が弥生時代後期から奈良時代にかけて栄えた集落であることがわかりました。特に弥生時代の終わりごろから古墳時代の初頭にかけては何度も建物が建て替えられていると考えられ、貴重な集落遺跡の資料となりました。これに伴う墓域^{ぼいき}や耕作地（田）などはいまだ確認されておらず、下六光寺遺跡の全容解明に向けて今後の調査課題であると考えています。

☆ ようごかいせつ 用語解説 ☆

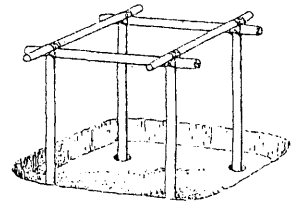
- ★ 遺跡^{いしき} …過去に人々が生活し、そこに遺構や遺物が残されている場所。集落跡や貝塚、古墳などの目立つ遺構がある場合のほか、最近では周辺の自然環境を含めて遺跡の範囲に取り入れることも多い。
- ★ 遺構^{いこう} … ①大地に刻まれたり、取り残された非可動的な人為による痕跡。②当事者およびその属する社会にとっての機能が停止した施設。
- ★ 遺物^{いぶつ} …過去の人間活動の痕跡を何らかの形で示している可動的な物質。この中で、石器や土器のように加工された結果を残すものを人工遺物、加工の跡は見られないが、食用のために運搬され、のちに廃棄された貝塚や獣骨などを自然遺物と呼ぶ。さらに現在ではその役割を担っていないという点において伝世品^{でんせいひん}と区別される。

★ **竖穴住居** たてあなじゅうきょ …地表面を竖（たて）に掘りくぼめ、底面を平坦に踏み固めて床面を作り、炉、竈、柱穴、周溝を設け、その上に屋根を覆った住居。日本では縄文時代から平安時代まで続いた住居の一形式。平面形には円形、長方形、方形、隅丸方形、楕円形などがあり、時代と地域によって、変化が見られる。



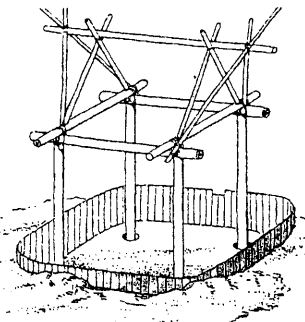
● 竖穴式住居の建て方

(作画/藤田正純)



① 柱を立てる

まず地面を円形・楕円形または方形に50cm前後の深さに掘り下げ、床をつくる。中に柱用の穴を掘り、柱（東日本においては4本柱が主流）を立てる。柱の上には板・梁を渡し安定させる。



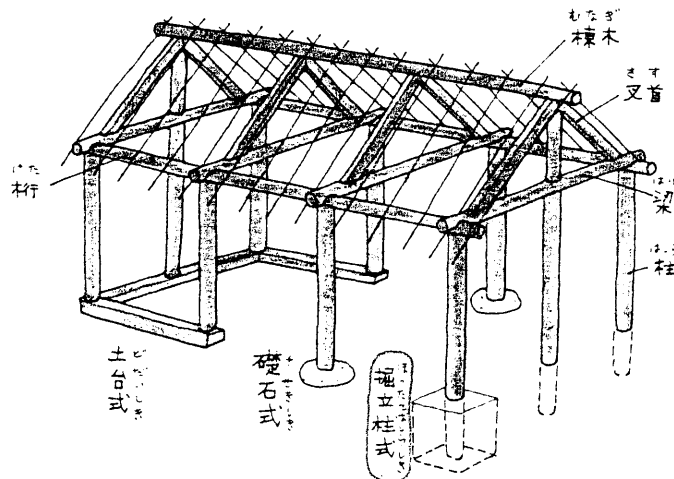
② 小屋組をかける

梁の上に又首を交差させ、そこに棟木を載せて小屋組部分の枠組みをつくる。さらに掘り下げた竖穴の側面には板が当てられ、土が崩れないよう補強している。

③ 骨組みの完成

竖穴の周囲に盛り土をし、地固めをしっかりとする。盛り土は風を遮り雨水の浸水を防ぐとともに、保温性と防湿性にすぐれ、ここに差し込まれた屋根の枠組みとなる垂木を支える。垂木は盛り土にほぼ等間隔に差し込み、カヤやアシなどを敷くための棧（横木）を結びつけた。これで住居の骨組みがほぼ完成する。住居に使用される木材は、一般に加工しやすく軽い木材を使用するが、地域的な植生分布の特色が強く影響しており、北九州では堅く加工しにくい常緑広葉樹が多く分布するため、これらの木材を使った例もある。

★ **掘立柱建物** ほりたてばしらたてもの …地中に穴を掘って柱を埋め込んで立てた掘立柱式の建物。



- ★ ミニチュア土器 …超小形の土器の総称。一般的に小形品とするものよりさらに小さい。通常の大きさの土器の器形を模したものが多いが、その器本来の機能ははたしえない。
- ★ ピット … 地面に掘られた遺構としての総称。土坑の同義語。ただし、例えば柱決などの比較的に小形のものに対して、土坑の用語を用いることはないが、ピットは使用される。この点を考慮するならば、ピットのほうが土坑よりも広い対象に用いられる傾向にある。
- ★ ^{どこう}土坑 … 地面を掘り窪めた穴の総称。普通は柱穴のように大形で機能が明らかなものの中に位置する規模の穴をさして用いる。

参考文献

『復元するシリーズ① 卑弥呼の時代を復元する』株式会社学習研究社 2002年

『日本人はどのように建造物をつくってきたか 平城京 古代の都市計画と建築』草支社 1986年

『最新日本考古学用語辞典』柏書房株式会社 1996年

『国史大辞典』吉川弘文館 1989年

＼(^o^)/ 国分寺北遺跡公開のお知らせ ＼(^o^)/

豊川市教育委員会では平成15年度の発掘調査のひとつとして国分寺北遺跡の調査を行いました。調査の結果、寺院地を区画すると思われる奈良時代の区画溝のほか、井戸や竪穴住居跡、土坑、ピットなどが検出されました。本日のみ見学が可能ですので、興味をお持ちの方はぜひお立ち寄りください。(現地地図は2ページの中央●印をご覧ください。)

